

# TOPICS

## UTRIP2016

作田 千絵 (国際化推進室 講師)

**理**学系研究科の恒例行事となったUTRIPプログラム(The University of Tokyo Research Internship Program)が2016年も無事に終了した。本プログラムは、海外の学部学生が理学系研究科5専攻の研究室に6週間滞在し、インターンシップを行う夏季短期プログラムである。2010年のプログラム開始時から年々応募者が増え、今では毎年世界中から500名を超える応募が集まる人気プログラムとなっている。今年のUTRIPには9ヶ国の大学から21名の学生が採択され、それぞれ希望先の研究室で研究活動に参加するとともに、UTRIPセミナーやパーティーなどの場で理学系研究科・理学部の学生と交流を深め、日本語や日本文化を学び、様々な体験を積んで帰国した。本プログラムの狙いの一つは、海外の大学で勉学に励んでいる優秀な学生が、UTRIPを通じ、本学理学系研究科への入学に興味を持つ機会を提供することにある。実際、



日本文化体験講座  
(春花園BONSAI美術館にて)

昨年夏のUTRIP参加学生のうち3名が理学系研究科の修士課程に合格し、この秋から入学予定となっている。なお、本プログラムは大和証券グループ本社と東大友の会(Friends of UTokyo, Inc.)のご支援を受けて実施されている。

## Summer in Japan

Chan Hong Pou (The University of Edinburgh)

**T**his summer, I was fortunate enough to undertake a research project investigating MHD waves using computational simulations in the Yokoyama laboratory as part of the UTRIP program. Initially it was a little daunting. However, everyone in the group was really patient and supportive which truly made me feel welcome. I have gained an invaluable insight into how cutting edge research is conducted. UTRIP also brought people from all over the world and it was fantastic to interact with other talented students who are passionate about science. I really appreciated the opportunity to immerse myself in the vibrant and fascinating Japanese cultures, from traditional tea ceremonies to learning interesting Japanese phrases from my lab mates. The people I have met and the experience gained made this summer in Tokyo an unforgettable one.



At the Closing Ceremony and Farewell Party



UTRIP参加学生と本学学生の交流パーティー

## 理学部オープンキャンパス2016報告

オープンキャンパス実行委員長 志甫 淳 (数理科学研究科教授／数学科兼任)

**2**016年のオープンキャンパスは8月3日(水)、4日(木)に行われた。理学部では、3日は午後のみのプレオープンとして主に講演会が行われ、4日はメイン開催日として講演会および各学科の展示・ラボツアーが行われた。オープンキャンパスの仕事ではいつも猛暑が記憶に残っている。今年もやはり暑い中の開催であったが、理学部1号館ピロティは大変多くの来場者の方々に賑わっていた。講演会の整理券を求めて廊下に長い列ができるという光景も見られた。今年の来場者総数は7321人であった。これは昨年より2000人以上も多く、まさに驚異の数字である。

小柴ホール講演会では、大学院生による3講演および教員による3講演が行われた。どの講演も研究について楽しく、わかりやすく高校生に伝える素晴らしいものであった。

また、今年は理学部1号館のギャラリーに、小柴昌俊先生のものに加えて、梶田隆章先生のノーベル物理学賞記念展示が新たにお目見えし、来場者の人気を集めていた。来場者の中から将来ノーベル賞受賞者が現れることを期待したい。

オープンキャンパスの開催には、多くの方々の協力が不可欠である。菅原栄子さんを始めとする広報室の皆様、瀧田忠彦事務部長、末武伸往総務課長を始めとする理学部事務および情報システムチームの皆様、講演者の皆様、展示・ラボツアーの各研究室の皆様、実行委員の皆様そしてTAの学生の皆様に深く感謝を申し上げる。



オープンキャンパス当日の様子

## 理学部イメージコンテスト2016優秀作品

オープンキャンパス実行委員長 志甫 淳 (数理科学研究科 教授/数学科 兼任)

**オ**ープンキャンパスの開催に合わせ、今年も理学部イメージコンテストが2016年8月3日(水)、4日(木)に開催された。これは教員、学生の皆様から応募いただいた研究に関する美しい写真作品をオープンキャンパス開催期間中に理学部1号館ギャラリーに展示するというものである。来場者、スタッフ、関係者の皆様に投票していただき、それに基づいて最優秀賞・優秀賞が決定される。毎年、イメージコンテスト自体の周知が

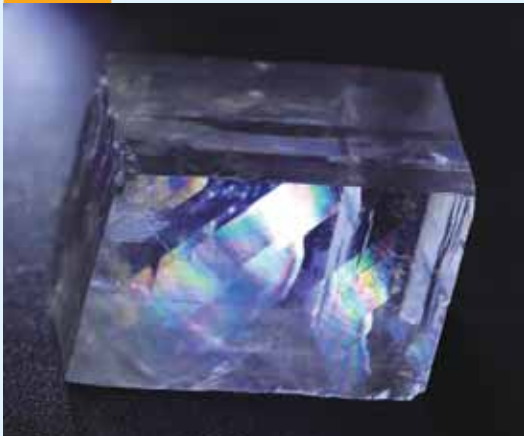
難しく、作品がなかなか集まらなくて苦勞する企画である。しかしながら、今年是最終的に19作品もの応募があり、その中から3作品が最優秀賞・優秀賞に選ばれた。忙しい中応募してくれた教員、学生の皆様に深く感謝を申し上げる次第である。

様々な苦勞を乗り越えた上で得られる研究成果の美しさは写真にはおさまりきらないものであるし、また、写真にすることによりその真の美しさが歪んで伝わることもあり得

ることである。しかしながら、写真の美しさは人々に直接的にアピールするものなので、研究活動、広報活動において大変重要なものではないだろうか。来年度はより積極的な応募を是非お願いしたいと思う。

また、過去の理学部イメージコンテストの応募作品にはイメージバンクサイト (<http://www.su-tokyo.ac.jp/imagebank/>) で見られるものも多くあるので、皆様もぜひ楽しんで見てほしいと思う。

### 優秀賞



「不完全の美」

竹之内 惇志 (地球惑星科学専攻 博士課程2年生)

方解石の劈開(割れ)によって見られる干渉縞。割れも不純物もない完全な単結晶は綺麗ですが、割れて乱れて現れる美しさというものがあります。僕は完全よりも不完全に良さを見出していくことが好きです。

### 最優秀賞



「4次元クライン群の極限集合」

河野 俊文 (数理科学研究科 教授)

4次元空間の点についてメビウス変換という操作を何度も施して得られる極限の集合を境界の3次元空間に描いた模型です。クリスタルガラスの中にレーザー光でプロットする方法で制作しました。

### 優秀賞



「研究室をデザインする」

望月 公紀 (化学専攻 特任研究員)  
中村 栄一 (東京大学名誉教授/特任教授)

昨年度竣工した「分子ライフイノベーション棟7階実験室(理学系研究科所属)」の化学実験室。物があっても整えられているように見える研究室を目指してデザインしています。化学研究を行っていた建築家と研究者との丁寧な対話から生まれる研究空間は、その美しさだけでなく安心安全で効率の良い研究室に生まれ変わります。(写真撮影: 太田拓実)